

## 第1回姫路港港湾計画検討会 議事要旨

1 開催日時 平成28年12月27日(火) 13:30～15:10

2 開催場所 兵庫県民会館 10階福の間

### 3 出席者(敬称略、五十音順)

石黒 一彦(神戸大学大学院 准教授)

稲田 雅裕(近畿地方整備局 港湾空港部長) ※代理出席:小野 正博

内海 将博(姫路市副市長) ※代理出席:高馬 豊勝

岡本 周治(兵庫県中播磨県民センター長)

糟谷 昌俊(兵庫県県土整備部長) ※代理出席:濱 浩二

川路 勉(神戸運輸監理部 海事振興部長) ※代理出席:中村 厚志

黒田 勝彦(神戸大学 名誉教授)

土井 健司(大阪大学大学院 教授)

藤井 隆(ひょうご埠頭(株)社長)

榎村 久子(京都女子大学 客員教授)

水田 裕一郎(姫路港運協会 会長)

宮里 一敏(姫路港長) ※代理出席:渡川 明

吉田 裕康(姫路商工会議所 専務理事)

### 4 議事

#### (1) 会長の選出

委員の互選により、会長には神戸大学名誉教授の黒田勝彦委員が選任された。

#### (2) 資料説明

事務局より、以下の内容について説明を行った。

- ① 港湾計画検討の進め方
- ② 港湾計画の基本方針
- ③ 主な施設計画と土地利用計画の方向性

○主な質問

| 質 問   | 回答（港湾課）  |
|---|--|
| <b>&lt;資料 1：港湾計画検討の進め方&gt;</b>  |  |
| <p>第 2 回検討会～第 3 回検討会の間に「環境アセスメント」があるが、これはこの期間で完了できるものなのか。</p>   | <p>環境アセスメントに必要な現況調査は既に実施しており、今年度中に完了する予定です。第 2 回検討会で施設計画・土地利用計画等が定まれば、振動、騒音、大気、潮流への影響等について調査を行う予定であり、資料 2 に記載しているスケジュールで可能と考えております。</p>  |
| <b>&lt;資料 2：港湾計画の基本方針&gt;</b>   |  |
| <p>「交流・生活」の基本方針に「クルーズ船の受け入れ環境の充実」とあるが、H29.3月に予定されている「飛鳥Ⅱ」の寄港に際して、「入出港の際、須加地区の公共埠頭（5～8号）に船舶を係留させないように」と要望があった。今後大型のクルーズ船の誘致を図るのであれば、貨物船に影響を与えないよう新たなバースを整備する必要があるのではないか。</p> | <p>姫路港におけるクルーズ船の利用状況および利用見込みを踏まえた場合、クルーズ船専用の埠頭を新たに計画、整備することは非常に困難であると考えております。</p> <p>「飛鳥Ⅱ」については、初入港ということもあり、安全を期しての対応だと考えております。こちらについては、早期に公共埠頭の利用を調整することにより対応する予定です。</p> <p>今後は、貨物船の停泊・荷役に支障が出ない方向でクルーズ船の誘致を進めていきたいと考えています。</p> |
| <b>&lt;資料 3：主な施設計画と土地利用計画の方向性&gt;</b>   |  |
| <p>P1「(1)物流・産業編」の「①広畑地区においてバルク貨物取扱い機能を強化」とあるが、バルク貨物を取り扱うためには最低限防塵ネット等の環境対策を講じる必要があると考えるが、何かそのような対応を考えているのか。</p>   | <p>防塵ネット等については港湾計画への位置づけが必要なものではないことから、ご意見としてお伺いし、今後の港湾整備の参考にさせていただきます。</p> <p>なお、バルク貨物のすべてが粉塵を伴うものではありませんが、周辺環境への影響が懸念される場合は他の埠頭と同様、必要な環境対策を講じます。</p>   |

|  |  |
|--|--|
| <p>P 2 「(1) 物流・産業編」の「①神戸港間の内航コンテナ貨物を取り扱える埠頭の整備」で浜田地区が挙げられているが、これは浜田地区の公共埠頭に、コンテナ用のクレーンを設置したコンテナターミナルの整備が計画されているということなのか。</p> | <p>港湾計画は10～15年後を目標年次とした計画であるため、現時点では、浜田地区に公共クレーンを設置したコンテナターミナルの整備計画はありません。</p>   |
| <p>P 3 「交流・生活編」の「①交流拠点の再開発推進」に「再開発が必要なエリア」とありますが、大型クルーズ船が来ると、乗客の移動に何十台ものバスが必要になりますが、そのバスを停めるスペースはこのエリアで考えていますか。</p>          | <p>現状では、須加地区の耐震岸壁付近にクルーズ船を着け、その背後の野積場に駐車しているバスに乗り込み、そのまま観光地へ行くという流れになっております。</p> <p>この野積場については、バスの駐車場として利用できるよう、クルーズ船が来るときには用地を空けるようにしており、今後もその利用形態を続けていくことを考えております。</p> |
| <p>P 4 「自然・環境編」で「①循環資源の適正な取扱いを促進」とあるが、どのようなことを考えているのか。</p>   | <p>姫路港は金属くず等の循環資源を多く取り扱っています。そのため循環資源の取扱いにあたりよく問題視される、スクラップ等を高く積むことによる景観問題や騒音に配慮する必要があることから、循環資源の取扱いに関するマニュアルを徹底したいと考えています。</p>  |
| <p>P 5 「安全・安心編」で、港湾BCPの作成を別途進めているとのことでしたが、その内容を港湾計画に反映させることは可能なのか。</p>   | <p>姫路港の港湾BCPは今年度中に策定する予定ですが、港湾BCPは、現有施設をベースに、災害時の機能復旧の優先順位などを検討するものであるため、この内容を港湾計画に反映させることは考えておりません。</p>   |

|  |   |
|--|---|
| <p>P 4 「自然・環境編」で「②海浜計画を位置づけ、干潟・浅場・藻場を整備」とありますが、青色の○で囲まれていない網干沖地区の西側では藻場造成の実験が行われていますが、将来的にどのようにしていくのか。</p> | <p>瀬戸内海環境保全特別措置法の改正で、「きれいな」なだけでなく、「豊かな海」を目指すことが盛り込まれました。そのため、干潟・浅場・藻場というものは積極的な造成を図ってほしいというような要請を受けております。</p> <p>資料には候補地を記載していますが、ここで示していない箇所を含めて、漁業関係者や海上保安部等の関係者と調整して、できる限り多くの海浜計画を港湾計画に位置づけたいと考えております。</p> |
|--|---|

○主な意見

<耐震岸壁>

○姫路港における耐震岸壁の必要整備量については、家島諸島についても考慮する必要がある。一般的な耐震岸壁だと、緊急支援物資の荷揚げだけを考え、物資を移出することは余り考えていないと思われるが、姫路港の場合、家島諸島への物資の移出や、人の行き来のために旅客船を着岸させる必要が出てくる可能性がある。そのため、家島諸島のことにも適切に考慮すべきである。

<都市計画との関連>

○P 3 「交流・生活編」で「②港と内陸部市街地のアクセス利便性の向上を促進」とあるが、これを実施する際、立地適正化計画との関連づけが必要になってくる。姫路市では昨年から、この計画の策定に着手されているとのことでしたので、その都市計画的な観点とこの港湾計画の観点を結びつけるように検討いただきたい。

【以上】